

東京

「其の日」暮らし

＝ドイツ編＝



初めての左ハンドル その1

風がどんどん冷たくなり、空の蒼さが深くなっています。ドイツでは十月最後の日曜日から再び冬時間が始まります。

先日、義母が日本から来てくれました。こんな機会でもないと、どこにも遠出しないうでシュトゥットガルトから100kmほど離れたところにあるバーデン・バーデンに行くことになりました。ガイドブックによるとここは「ヨーロッパ屈指の高級温泉保養地」で「黒い森」の起点でもあるそうです。

さて行く準備をするにあたり、何を使って目的地まで行くか？ ということになります。電車でも行くことができますし、もちろん車でも。ですが我が家には車はないのでレンタカーということになり、私が運転することになります。私は車の運転は好きなのですが、海外では日本と同じ右ハンドルの国イギリスでしか運転したことがありません。ドイツに来てからも人に乗せてもらってばかりでしたが、実はいつでも運転できるようにドイツ生活が落ち着き始めた頃にE.U.圏内で通用する免許に書き換えていたのです。それが役に立つときがついに来たのです。「今回左ハンドルデビューするチャンス！ 心強いサポートである義母と一緒に今回を逃したら、子供と自分だけのデビュー・・・それはちょっと不安」など思いながらレンタカーで行くことに決めたのです。

借りたのはベンツ。日本では高級外車ですが、ベンツの社はここシュトゥットガルトにあります。日本のレンタカーでトヨタやニッサンを借りる感覚です。もう少し小さい車が良かったのですがオートマティック車は数が少ないため一週間くらい前からでないと、確保できないのだそうです。残りはすべてマニュアル車。一応免許は持っていますが教習所を卒業以来乗っていません。現物を見ると大きいと言っても何とか大丈夫そうな大きさでしたので鍵を受け取っていざ出発です。驚いたことにヘッドライトは自動点灯、アイドリングストップを自動的



ドイツの標識 自転車の標識が多いのも特徴です。

に行うE C O機能などがついているのです。「しばらく車に乗らない間にどんどん新機能ができているのだなあ」と思いました。今まで何度も友達の助手席に乗せてもらったおかげで信号や道路標識、車線変更などは何となくですがわかっていましたし、日本とよく似た標識なので何とかいけそうだと家までヨタヨタ運転をしたのでした。

PUKIPUKI・N

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株)ファッションビジネス・御堂筋新聞